

○益子慎哉議長 日程第1，一般質問を行います。

通告順に発言を許します。18番黒沢義久議員の発言を許します。黒沢義久議員。

〔18番 黒沢義久議員 登壇〕

○18番（黒沢義久議員） おはようございます。ただいま議長のお許しをいただきましたので、通告に基づきまして一般質問を行います。

それでは初めに、市長の政治姿勢についてお伺いいたします。

大久保市長におかれましては、平成17年5月に就任されましたが、3期目の任期を残すところ半年となりました。市長が就任されてからの11年6カ月を振り返りますと、平成20年のリーマンショックを契機とする世界同時不況や平成23年の東日本大震災など、国内外の社会経済情勢を大きく揺るがす出来事が発生いたしました。

このような中で、本市においては合併効果を最大限に生かし、新市の一体感や活力の醸成を図ることにより、第5次総合計画が描く将来像「快適空間」の実現を目指して、市民と行政が一体となって各種施策の具現化に取り組んでまいりました。東日本大震災からの復旧・復興、少子化・人口減少対策を初め、交流人口の拡大、公共交通の再編、道の駅や小中学校の建設、国・県道の整備、行財政改革の断行など、私は着実にその成果を上げてきていると確信しております。

特に少子化・人口減少対策については、定住促進のための新婚家庭家賃助成や住宅取得促進助成、結婚促進のための企業誘致や結婚相談センターの設置、子どもを増やすことを目的とする不妊・不育治療費助成、そして保育園・幼稚園の保育料減額、子育てを応援する「子育てすくすくメール」、助産師派遣など、これまでさまざまな施策に取り組み、出生数や転入者の増加など、一定の成果を上げているところでございます。これらの施策は国やほかの自治体に先んじた取り組みで、全国各地からも数多くの市議会が視察のために本市を訪れております。

市長は各地の懇談会を初め、イベントやお祭りにも積極的に参加するなど、地域をくまなく歩き、市民との対話や触れ合いを大切にしてくられました。そして、その中で出された意見に耳を傾け、常陸太田市のまちづくりに反映させ、大きな実績を残されております。市民は市長が精いっぱい努力している姿を見ていますし、これまでの市政運営を高く評価しています。私が市民の方々とお話をすると、多くの方が大久保市政の継続を強く希望しており、市長に対する信頼、そして、期待の大きさを感じます。

そこで、市長にお伺いいたします。来年5月21日で市長任期が満了しますが、これまでの市政の成果・実績をどのように判断されているのか、また、次期市長選への考えと政治姿勢についてお伺いいたします。

次に、2点目の観光グローバル化に伴う観光行政についてお伺いいたします。

常陸太田市では、現在、交流人口の拡大による観光振興を図るため、観光物産協会を中心に事業が展開されております。それぞれの地域に農家民泊組織を立ち上げ、農家民泊による教育旅行の推進や、地域の魅力と資源を最大限に活用した着地型のグリーンツーリズム、スポーツツーリズムなど、体験型・交流型の要素を取り入れた地域独自の創意工夫を凝らしたメニューづくりを行い、都市生活者の誘客に鋭意努力されておりますことに感謝の意を表したいと思います。

さて、余暇の過ごし方の多様化や経済の低迷、今後迎える人口減少社会などにより、国内の観光市場はますます縮小していきたくらうと言われております。そのような中、海外からの観光客の誘致拡大を図るため、国においては「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定し、茨城県においては「いばらきグローバル化推進計画」を策定するなど、訪日外国人旅行者の誘致に向けた取り組みが一層強化されてきているところであります。

今年の10月30日までの訪日外国人旅行者は、日本政府観光局の推計によりますと2,005万人となり、初めて2,000万人を突破したと報道されております。また、茨城空港を利用した訪日外国人旅行者は、平成20年度が4万人、平成27年度が5万8,000人となり拡充している現状となっております。こうした中、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されるなど、ますます訪日外国人旅行者の増加が見込まれ、地方にも大きく分散してくるものと思慮するところでございます。

そうした中で、人口減少や少子・高齢化の進行等の課題に直面している常陸太田市としても、外国人旅行者の誘致戦略は交流人口の拡大、地域経済を生み出すためにも有効な戦略と思われまます。外国人観光客のニーズを捉え、外国人の目線に立ったメニュー作りを行い、誘客拡大に努めていただきたいと思います。

そこで受け入れの最大の障害となるのは、言語、言葉の問題であると思われまます。外国人の多くは、日本の文化などに触れることができる田舎暮らしなどの体験型観光に大きな興味を持っていると思われまます。おもてなしの心を持ってお迎えができる、グローバルな視点を持って地域の魅力を発信、紹介することができる人材の育成、確保など、受け入れ態勢、インバウンド対応についてご意見をお伺いいたします。また、観光施設や直売施設等でも、訪日外国人旅行者に適切な情報の提供ができる多言語案内板等の設置や商品の案内や紹介等の多言語解説の設置等の導入についてのご意見をお伺いいたします。

以上で1回目の質問を終わります。よろしくお願ひいたします。

○益子慎哉議長 答弁を求めます。市長。

〔大久保太一市長 登壇〕

○大久保太一市長 ただいまの市長の政治姿勢についてのお尋ねにお答えを申し上げたいと思ひまます。

初めに、これまでの市政の成果・実績をどのように判断しているのかというお尋ねがございました。議員ご発言のとおり、平成17年5月に市長に就任いたしましてから、合併直後であるということもございまして、市民の皆さんの一体感の醸成ということを念頭に置きながら、第5次総合計画に描きます将来像「快適空間」の実現を目指し、「輝く人をつくる」「安らぎのある快適環境をつくる」「まちの元気をつくる」の各施策に対しまして、市民協働とエコミュージアム活動を柱としながら推進をしてきたところであります。

しかしながら、予期しなかった東日本大震災の発生によりまして、復旧・復興を優先させながら、少子・高齢化、人口減少対策を重点課題といたしまして、結婚、出産、子育て支援やにぎわい創出による元気づくり等を重点に置きまして、市民の誰もが地域に誇りと愛着を持ち、住んで

よかったと思えるまちづくりを進めてまいったところでございます。

少子化対策といたしまして、子育て世代の経済的負担の軽減を図りますとともに、安心して妊娠、出産、子育てができる環境づくりに取り組んでまいりました。平成27年度以降の社会増減におきましては、転入者の多い月もおかげさまで出てきたところでございます。また、今年小学校に入学いたしました児童におきましては、生まれたときよりも六十数名増えているという状況も確認ができております。さらには来年の小学校入学児童につきましても、ただいまのところ、出生者数よりも73人増加の数字が確認をされているところであります。いずれにいたしましても、今後ともこの少子化対策につきましましては重点課題として取り組んでいく必要があると考えております。

また、若者定住には雇用の確保の場が重要であることから、企業誘致や立地企業の事業拡大等の支援をしてまいり、現在、工業団地の空き区画も1区画に、そして廃校跡地に3企業が進出をするなど、一定の成果が出ているものと考えております。さらに、商業地の立地による魅力ある市街地づくり、雇用の場の確保のために、現在、東部土地区画整理事業を推進しているところでございます。

次に、未来を託す人づくりにつきましましては、時代を担う子どもたちが地域や郷土への愛着や誇りを持ちながら、児童生徒一人ひとりが自分の夢に向かって力強く進んでいくことができるように、本市教育の重点であります「夢育」を推進するとともに、耐震改修や老朽化による峰山、里美中学校の校舎の改修、統合による里美小学校、金砂郷中学校校舎の整備、そして常陸太田特別支援学校を誘致するなど、教育環境の充実を図ってきたところでございます。

安全・安心のまちづくりにつきましましては、大きな被害をもたらしました東日本大震災を教訓に、災害発生時に地域住民が迅速に対応できるよう、地域防災体制の整備に努めてまいりました。また、震災被災者支援といたしまして、一部損壊の住宅等に対しまして修繕費用の一部を市単独で支給するなど、震災からの早期復旧に努めたところでございます。

にぎわい創出による元気づくりにつきましましては、農林畜産業の振興と交流人口の拡大による地域経済の好循環を図りますために、「道の駅ひたちおおた」を整備したところでございます。また、農業生産基盤の整備といたしまして、圃場整備事業あるいは各種土地改良事業を推進、促進しますとともに、新規就農者育成にも努めてきたところでございます。

健康・福祉の環境づくりにつきましましては、市民の健康づくりの指針であります健康増進計画を定めまして、健康寿命の延伸のため、当市の健康課題であります生活習慣病の予防に向け、食事や運動など、市民一人ひとりが日常生活の中で実践できる健康づくりを推進しているところでもあります。また、早期発見、早期治療を実現するため、定期健康診断や各種検診の受診率の向上を図ってまいりましたが、さらなる受診率向上に向けた対策が必要であると考えております。

公共交通ネットワークづくりにつきましましては、公共交通の維持確保と利用促進等について、現在本市の抱える公共交通に関する課題を解決いたしますために、地域公共交通網形成計画並びに地域公共交通再編実施計画に基づきまして、本年10月から公共交通の再編を実施したところでございます。

道路整備につきましては、安全・安心な交通ネットワークを確保いたしますために、また、人の流れの円滑化のために、国道349号バイパスの幸久大橋を含む4車線化を初め、国・県道の整備促進を図りますとともに、通勤、通学、通院、買い物といった市民生活の利便性が向上するよう、幹線市道の整備についても計画的に進めてきたところでございます。

最後に、行財政改革といたしまして、健全な財政運営のために、普通会計におきましては、合併時と比較をいたしまして市債残高を102億円減少、そして基金残高を99億円増額したところでございます。

以上、これまでの市政の実績につきまして、その大まかなところを述べさせていただきましたが、何といたしましても人口減少に歯止めがかかるというところまでは至っていないところが残念でございます。実行に当たりましては、議員各位、市民、そして市職員、県、国の関係機関の皆様方のご尽力とご支援をいただきましたことに対しまして、改めて御礼を申し上げる次第でございます。

次に、2点目の次期市長選挙への考えと政治姿勢についてのお尋ねがございました。

初めに政治姿勢であります。私は本会議等でもご質問にお答えをしましたが、自らをむなしゅうして、市民の視点に立って行政執行を公正・公平な判断を基準として進めていく、このことは今日も変わっておりません。

さて、先ほど来申し上げましたように、少子・高齢化、人口減少対策が、今、市にとりまして最重要課題でございます。そのためには、できるだけ早く社会減による人口減少を食い止めまして、今、社会減は年間300人前後減少につながっています。これをゼロにすることを目指すべきであります。また、市内の経済の好循環を図ることも生活環境の整備、そして雇用の確保の点からも重要でございます。これらを中心とした第6次総合計画を今定例会におきましてご承認いただきまして、その具現化に向けて努力をしまいたいと考えております。

また、あわせまして、多くの市民の皆さまからも激励の声をいただいておりますこと、大変ありがたく思っております。次期市長選挙には前向きに検討を進めてまいりたいと考えております。

○益子慎哉議長 商工観光部長。

〔岡崎泰則商工観光部長 登壇〕

○岡崎泰則商工観光部長 観光のグローバル化に伴う観光行政についてのご質問にお答えをいたします。

まず、外国人観光客に対応するための人材の育成等についてでございますが、本市を訪れる外国人観光客の多くは、中国、韓国、台湾などからの旅行者で、竜神大吊橋を中心に、バスツアーによる団体旅行者が年々増加傾向にございます。また、日本の文化を体験学習したいという学校等による教育旅行の要望も増えてきております。そのため本市では、観光関連施設等を中心におもてなし研修事業の実施や教育旅行の誘致等に取り組んでおります。

具体的な取り組みといたしましては、市内の直売所や飲食店、宿泊施設、ゴルフ場やタクシー会社等の観光関連事業者を対象に、観光客にきめ細やかな対応と質の高いサービスを提供するため、昨年度から市観光物産協会において、おもてなし接客研修会を実施しております。今年度の

テーマは、「インバウンドマーケティングの現状と今後」、また、「言葉が話せなくても外国人は怖くない」など、外国人観光客に特化した内容で5回に分けて実施をしております。

教育旅行につきましては、民泊農家で組織する各地区農家民泊受け入れ協議会におきまして、既に海外高校生の受け入れ経験のある民泊農家の体験談や専門家による研修会を実施しておりますとともに、インバウンド受け入れ農家を積極的に募り、茨城県や青少年交流事業を所管する外務省、また旅行会社のエージェント等と連携を図りながら誘致活動を行っております。

今後も引き続き、観光関連事業所や観光ボランティア等のおもてなし気運の醸成、また接客等のスキルアップのための研修など人材育成に取り組み、おもてなしの向上を図っております。

続きまして、観光施設等の整備についてのご質問にお答えいたします。

本市においては、昨年度までに、市観光物産協会のホームページのリニューアルに伴い、英語、中国語、韓国語に対応した多言語機能の整備や無料公衆無線LAN(Wi-Fi)を11カ所の観光施設に設置したほか、常陸太田ガイドマップや竜神大吊橋のパンフレットの英語、中国語、韓国語版の発行など、外国人観光客への情報発信サービスを充実させてまいりました。さらに今年度は、主要観光施設5カ所に、茨城県がこのほど制定いたしました「いばらき多言語表記ガイドライン」に基づきまして、絵文字等を用いた多言語表記による観光案内看板を整備しております。

その他、観光施設で販売している商品の案内や紹介等につきましては、レジ等の接客等を含みまして、国立研究開発法人情報通信研究機構が開発いたしましたスマートフォン用多言語音声翻訳アプリや民間通訳サービスを活用しております。また、手づくりの多言語表記のポップ広告、店頭での商品案内になりますが、これらを積極的に取り入れまして、外国人旅行光客へのサービスの向上が図られるよう指導を徹底しております。

○益子慎哉議長 黒沢議員。

〔18番 黒沢義久議員 質問者席へ〕

○18番（黒沢義久議員） ご答弁ありがとうございました。市長の政治姿勢の中のこれまでの市政の成果・実績については、市民の負託を受けた市長として、市民の幸せを願い、市民の声を大切にしながら各種施策の実現に向けてスピード感をもって取り組んでこられたことは、多くの市民が認めるところであります。これまでの誠実な取り組みに対して、改めて敬意を表する次第です。

また、市長選挙への考えと政治姿勢については大変前向きな考えをお聞かせいただきました。1回目の質問でも申し上げましたが、市民は市長の市政運営と情熱を高く評価しており、今後も常陸太田のまちづくりに取り組んでいただくことを強く期待しております。来年4月からは、常陸太田市が策定する行政運営の総合的な指針、第6次総合計画がスタートいたします。また、地方創生の時代を迎え、自らの責任と判断により、質の高い行政サービスの提供が必要となっております。常陸太田市のさらなる発展のために、強力なリーダーシップと高潔な倫理観を持つ大久保市長に、引き続き市政のかじ取りをお願い申し上げます。

2つ目の質問、観光グローバル化に伴う観光行政については、東南アジアを初めとする新興国

の経済成長が著しいことなどから、今後ますます活動も活発化し、急増するものと思われます。訪日外国人旅行者の受け入れ環境を整備することは時間がかかるものと理解するところではありますが、極めて重要なものと考えます。綿密な戦略と情報収集をし、外国人旅行者の受け入れ態勢づくりを関係機関と連携を図り、中長期的なビジョンをもって戦略的に進めていっていただきますよう、よろしくお願いを申し上げます。

以上で私の一般質問を終わります。